

第58回大学院地球市民学専攻公開セミナー

平成28年5月19日(木) 18:10~20:30

於: 清泉女子大学 本館2階大会議室

# 「持続可能な開発目標(SDGs)とジェンダー 女子教育の推進を事例として」

---

(独)国立女性教育会館 研究国際室

清泉女子大学大学院 地球市民学専攻非常勤講師

越智 方美



# 報告アウトライン

---

1. はじめに
2. 持続可能な開発目標 (SDGs)
3. 女子教育推進のための国際社会の取組み
4. MDGsからSDGsへ
5. 持続可能な開発目標と日本
6. 質疑応答

# 1. はじめに

---

ジェンダー gender(英) genre(仏):

- もともとは、言語学の用語。名詞を性別化して分類する文法用語。
- i.e. 仏 le soleil (太陽=男性名詞) la mer (海=女性名詞)
- 第二派フェミニズム以降の文脈では、社会的・文化的な性差を表すものとして使われている

男女共同参画 (gender equality)

- 1990年代から日本政府が採用した男女平等社会の理念。
- 「人権尊重の理念を社会に深く根付かせ、真の男女平等の達成をめざすもの」(1996年7月 男女共同参画ビジョン 総理府男女共同参画審議会答申)

# 用語の整理「ジェンダー」

---

1. ジェンダー・アイデンティティ(性自認)
2. ジェンダー差・性差 社会的に構築された男女差
3. ジェンダー役割・性役割

# 教育とは人権の問題である

---

世界人権宣言 第26条(1948年)

- すべての人は教育を受ける権利があり、無料で初等教育等の基本教育が与えられなければならない

教育における差別撤廃条約(1960年)

- 教育における差別は基本的人権の侵害である。両性は教育への平等なアクセスだけでなく、質、水準、内容においても同じか、同等な教育を受けるべきである。

女子差別撤廃条約 第10条(1979年)

- すべての国は教育上の差別を廃止し、女性の教育における平等の権利を確立する為の適切な対策を取らなければならない

## 2. 持続可能な開発目標 (SDGs)

持続可能な開発＝将来の世代がそのニーズを満たせる能力を損なうことなしに、現在のニーズを満たす開発

---



17の目標

169のターゲット(数値目標)

先進国、開発途上国共通の目標

達成期限 2016年 から2030年  
まで

# 持続可能な開発目標 (SDGs)

---

目標1 あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ。

目標2 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する。

目標3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する。

目標4 すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

目標5 ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る。

# 持続可能な開発目標 (SDGs)

---

- 目標6 すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する。
- 目標7 すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。
- 目標8 すべての人々のための包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する。
- 目標9 レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る。
- 目標10 国内および国家間の不平等を是正する。
- 目標11 すべての人にとり安全で柔軟性に富み、持続可能な都市と居住地を形成する。
- 目標12 持続可能な消費と生産のパターンを確保する。



# 持続可能な開発目標 (SDGs)

---

目標13 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を講じる。

目標14 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する。

目標15 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る。

目標16 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する。

目標17 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

# 3. 女子教育推進のための国際社会の取組み

---

- 「万人のための教育世界会議(」(1990年、タイ ジョム ティエン) → EFA(Education for All)
- 「第4回世界女性会議」(1995年、北京)
- 「ダカール行動枠組」の採択(2000年、セネガル)
- 「ミレニアム開発目標」の採択(2000年、NY)
- 「持続可能な開発目標」の採択(2015年、NY)

# ミレニアム開発目標 (MDGs)

---

第1目標 極度の貧困と  
飢餓の減少

第2目標 普遍的初等  
教育の達成

第3目標 ジェンダーの  
平等の推進と女性の地  
位向上

第4目標 乳幼児死亡  
率の削減

第5目標 妊産婦の健  
康の改善

第6目標 HIV/エイズ、  
マラリア、その他の疾病  
の蔓延防止

第7目標 環境の持続  
可能性の確保

第8目標 開発のための  
グローバル・パートナ  
シップの推進

## 4 MDGsからSDGsへ

---

MDGsの8つの目標の内、

「ミレニアム開発目標報告書2015年版」では  
「第2目標 普遍的初等教育の達成」は、達成率の高い目標のひとつとして総括されている

# MDGs から SDGsへ

---

例えば、

1) 開発途上地域における初等教育の就学率は2000年の83%から、2015年の91%に改善した

3) 15歳から24歳の若年層の識字率は1990年から2015年の15年間で、8ポイント上昇し91%に達し、男女間格差も縮小した

2) 15年前に比べて、より多くの女子が就学することが可能となった

特に南アジア地域での進捗が顕著であり、1990年代には男子100名に比べて、小学校に通学していた女子は74名だった 今日では103名の女子が通学している

# MDGsからSDGsへ 残された課題

---

## 1. 教育の質の確保

- ✓ 教員へのトレーニングの必要性
- ✓ 女子生徒の「ロール・モデル」としての女性教員の養成
- ✓ カリキュラム、教科書に偏在するジェンダー・バイアス

# MDGsからSDGsへ 残された課題

---

## 2. より脆弱な立場の女性、女子への支援

- ✓ 紛争等のため就学年齢を過ぎた成人女性のための学習プログラムの欠如
- ✓ 設備の問題：通学路の安全、衛生施設（男女別トイレ）
- ✓ 寄宿舎：遠隔地に居住する子どもへの配慮が必要（女子、少数民族）

# MDGsからSDGsへ 残された課題

---

## 3. 固定的性別役割に関する意識

- ✓ 教育にかかるコスト： 学費、交通費、食費、宿泊費 → 女子奨学金（カンボジア、ネパール）
- ✓ 女子児童の機会費用：家内労働力への期待
- ✓ 社会的慣習：インドネシアの早婚制度（女子の中等教育の中退の原因）



# 5. 持続可能な開発目標と日本

---

## 国際社会との連携

- ◆ 世界第4位のODA(政府開発援助)ドナー国としての責務
- ◆ 開発途上国の女性支援へのコミットメント
- ◆ 国際公約としてのジェンダー平等の推進

## 国内のジェンダー課題との関連性

- ◆ 貧困削減(目標1)
- ◆ 就労・雇用分野での取り組み(目標8)
- ◆ 格差の解消(目標10)
- ◆ 災害リスク削減に女性の視点を組み込むこと(目標13)



教育分野での課題は??

# 日本における教育とジェンダー

---

- ◆ 明治以降、社会の近代化の過程で女子教育にも重点がおかれた
- ◆ 第二次世界大戦後は、GHQの政策の一環として教育の普及が推進
- ◆ 初中等教育レベルの「就学率」では、男女格差は実質的に解消された

# 日本における教育とジェンダー

教育におけるジェンダー平等を考えるフレームワーク

出所:菅野ほか編、2012

教育に関する権利	内容
1 教育を受ける権利 (アクセス)	<ul style="list-style-type: none"><li>・機会の平等</li><li>・学校へのアクセスの平等な機会</li><li>・無償教育</li><li>・安全な教育環境</li></ul>
2 教育を受ける過程 での権利	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習過程における平等</li><li>・偏見のない教授法、カリキュラム、 教科書</li></ul>
3 教育を受けた結果 としての権利	<ul style="list-style-type: none"><li>・就労機会と収入の平等</li><li>・女性の社会・政治活動への参加</li></ul>

- 
- 日本社会では高等教育を修了した女性が、能力を十分には発揮する機会に恵まれていない

この問題を解決するためには

- ✓ 在学中のキャリア教育
- ✓ 長時間労働を前提とした既存の働き方の再検討
- ✓ (男性も含めた)WLBの改善
- ✓ 育児・介護と仕事との両立支援

等の包括的な取組みが求められている

# 参考文献

---

菅野琴・西村幹子・長岡智寿子編著, 2012, 『ジェンダーと国際教育開発』, 福村出版

国際連合広報センター, 「MDGsとポスト2015」

[http://www.unic.or.jp/news\\_press/features\\_backgrounders/post2015/](http://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/post2015/)

(2016年5月11日アクセス)

小松太郎, 2005, 「紛争後の教育復興」, 黒田一雄・横関祐見子編著, 『国際教育開発論 理論と実践』, 有斐閣, pp.208-222

結城貴子, 2005, 「ジェンダーと教育」, 黒田一雄・横関祐見子編著, 『国際教育開発論 理論と実践』, 有斐閣, pp.178-191

United Nations, 2015, “The Millennium Development Goals Report 2015”, United Nations, New York.

---

ご清聴ありがとうございました